参考文献の引用箇所

はじめに

1. 少子化問題の現状
	1. 少子化
	2. 少子化進行による問題
	3. 現状

2. 現在の日本の雇用制度

2.1 産前・産後休暇

2.2 育児休暇

3. 日本の雇用制度の問題点

3.1 無言の圧力

3.2 男性の育児休暇

3.3 出産後の環境

3.4 女性の昇格

4. 政府の対策

4.1 内閣府

4.2 厚生労働省

謝辞

参考文献

はじめに

この論文では，少子化問題と日本の雇用制度の関係性について研究した．

今日の日本は少子化が進み，社会問題の一つとして問題視されている．そして，その原因の一つとして企業の雇用制度があげられる．

　産前・産後休暇の取りにくい環境，女性は出産や育児があるため管理職になかなかつくことができないという無言の圧力など，働く女性が出産することを躊躇する要素がある．

また，内閣府が少子化を問題視し，その対策として『子ども・子育てビジョン』を策定した．その政策の中に，目指すべき社会への政策４本柱があり，その一つに，『男性も女性も仕事と生活が調和する社会へ（ワーク・ライフ・バランスの実現）』が掲げられている．

これからどういう取り組みをしていけばいいのか

少子化が進行している原因に雇用制度が含まれると証明する

1. 少子化問題の現状
	1. 少子化[wiki]

少子化（しょうしか）とは，子どもの数が減少することである。

* 1. 少子化進行による問題[キッズ]

　少子化が減少すると、高齢者が増え高齢者を支える若者がいなくなってしまう。また、社会を支える世代が減少し、社会が成長しなくなる。

* 1. 現状

　現在は、回復傾向に向かいつつある。

2. 現在の日本の雇用制度

2.1 産前・産後休暇

　出産のために、一時仕事を休む制度のこと。

2.2 育児休暇

　育児に時間をあてるために，一時仕事を休む制度のこと．

3. 日本の雇用制度の問題点

3.1 無言の圧力

3.2 男性の育児休暇

　「育児は女性がするものだ」というイメージから男性が育児休暇をとることが少ない。

3.3 出産後の環境

　出産後、子どもを育てていく教育費や生活費が十分に確保できるのかという不安要素がある。

3.4 女性の昇格

　女性は、出産や育児があるため企業内で昇格しても仕事を辞めてしまう可能性があるため、昇格しにくいという傾向がある。

4. 政府の対策

4.1 内閣府

　内閣府は、少子化の進行を防ぐために「子ども・子育てビジョン」という政策を掲げている。

4.2 厚生労働省

　厚生労働省は、「子ども子育て支援」「職場における子育て支援」という政策を掲げている。

謝辞

参考文献

まずは、一文ずつ書く

「出生数が減少すること」「出生率の水準が特に人口置換水準以下にまで低下すること（故に、単なる出生率の低下とは異なるとされる）」「（高齢化の対義語として）子どもの割合が低下すること」「子どもの数が減少すること」を指し，いずれの意味であるかは文脈によるが，混同されている場合も多い．なお，子どもの定義もまちまちである．